



6月「水無月」 梅雨の季節

当たり前にある存在の大切さや尊さに気づく生徒に・・・

長崎県が梅雨入りして2週間あまりが過ぎました。窓から入ってくる風に湿っぽさを感じながら、ようやく日々の授業も、部活動も軌道に乗り始め、生徒達が本校の教育活動に伸び伸びと取り組む姿を大変嬉しく思っている今日この頃です。

しかしながら、臨時休業が終わりちょうど1ヶ月あまり、学習や部活動に、そして日々の集団生活にも一生懸命に頑張るからこそ、お子様方には少しずつ疲れが出てくる時期でもあります。ご家庭におかれましては、是非、学校での学習や生活、友達関係のことを話題にさせていただき、お子様が悩んだり困っているときには温かい声かけや励ましの一言をかけていただければと思っています。

また、お子様の言動で気になることやご心配な点がありましたら、どうぞお気軽に学校の方へご連絡ください。学校と家庭の垣根をより低くして、情報共有を図りながら家庭との連携に努める中で、お子様方をしっかりと見守り育むことのできる教育環境を構築できればと思っています。今後ともよろしくお願いします。

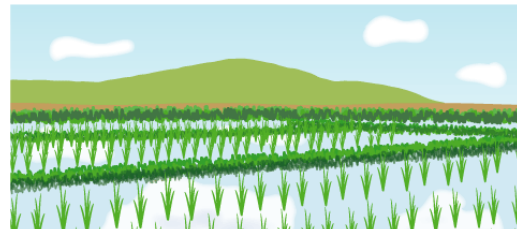
さて、確かにこの6月の梅雨という季節は、じとじとしていてうとうといと感じることがありますが、赤佐古の丘に立つ私たちの学舎から見える野山にとっては、間違いなく大地を潤す雨となるはず。そして、木々の緑や作物にとっては、より輝きやたくさんの実りをもたらす雨となり、田植え前の農家の方々やおいしいお米を食べたい私たちにとっても、ほっと安心できる恵みの雨になることだと思います。

人は、日々の生活に追われるあまり、時として当たり前の存在を忘れがちになります。そして、当たり前の存在がなくなろうとした時、または、なくした時、改めてその当たり前の存在の大きさに気付くのではないのでしょうか。

水、光、空気、大地。そして、友達、先生、家族。だからこそ、当たり前にある存在の大切さや尊さに気付く人となる。きっとその感性が、人としての優しさを深くし、人としての温かさにつながっていくのだと思います。

ぜひ大村中学校の生徒たちにも、当たり前にある存在の大切さや尊さに気付く、当たり前の存在に感謝する中で、自分や友達の命をしっかりと受け止め、自分の特性や才能をより輝かせることができる生徒たちであってほしいと思っています。

そんなことを改めて考えた、6月の一日となりました・・・。



6月「水無月」の意味を知っていますか？
水無月の「無」は、神無月の「な」と同じく「の」にあたる連体助詞の「な」で、「水の月」という意味になります。
そして、陰暦六月頃は田に水を引く月であることから、水無月と言われるようになったそうです。

今年度はコロナ対策のため 6/11「生徒総会代表者会」 6/19「生徒総会報告会」を開催しました!

中学校には、全校生徒を会員として組織して、自分たちの学校生活の充実発展や改善向上を目指すため、生徒の立場から自発的、自治的に行われる活動として生徒会活動が位置づけられています。そして、その最高議決機関が生徒総会です。しかしながら、今年度はコロナ感染防止対策における三密を避けるため、全校生徒が一堂に集まる生徒総会は残念ながら実施することが出来ません。このような状況下において、どのように対応すればいいのか？・・・。

しかし、第35代生徒会長赤尾航平さんを中心とする生徒会役員と担当の先生方は負けていませんでした。何度も協議を重ねる中で、生徒総会に変わる代案として、各クラスにおける学級討議、意見集約のために2回開催された生徒評議会を経て、見事に6/11「生徒総会代表者会」、6/19「生徒総会報告会」を生徒主導で開催してくれました。

内容的にも、各クラスの協議内容をもとに、代表の学級委員と生徒会役員の間で白熱した議論が交わされ、第1号議案「生徒会活動方針」、第2号議案「各専門委員会の年間目標、年間計画」、第3号議案「よりよい大村中学校を目指して～あいさつをよりよくするために～」の3つの議案全ての承認を得ることが出来ました。本当に生徒会役員を中心とする生徒会会員の皆さん、大変お疲れ様でした。チーム大中、みなさんの思いを力に変えて、さらに素晴らしい大村中学校を作っていきましょう!



凛々しい顔つきで代表者会に臨む生徒会長はじめ生徒会執行部の生徒たち

代表者会の議長を務めた3年生吉田さんと川淵さんです。お疲れさまでした。

全員マスク着用と換気に配慮しながらの代表者会の開催でした。

1年生の学級委員もクラスの代表としてしっかり話し合いに参加しました。

6/22「令和2年度大村市中学校運動部活動交歓大会激励式」開催！ 選手達の本大会にかける熱い思いがたくさん詰まった激励会となりました！

いよいよ今週の6月24日(水)新体操競技をスタートに、今週末の6月27日(土)・28日(日)に開催される11競技から7月26日(日)開催される柔道・剣道競技まで、合わせて18競技の令和2年度大村市中学校運動部活動交歓大会が分散開催されます。

これまで新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2回にわたる臨時休業が実施され、部活動が自粛、また、多くの大会が春から中止になる中で、日々の練習の成果を思い切り発揮する場面を奪われた選手のみなさんの気持ちは、とても悔しいものだったと思います。長崎県のチャンピオンとして九州大会出場の権利を持っていたにもかかわらず、その夢舞台にも出場することが出来ず、悔し涙を飲んだ選手達も本校にはいたのです。だからこそ、多くの3年生の選手達は、中学校最後の中総体に対して、これまでの思いを十分に果たしたいという固い決意の中で日々の練習に取り組んできたと思います。しかし、中体連が主催する全国・九州・長崎県規模の大会まで、全て中止となってしまいました。そのような状況の下、厳しい条件下ではありますが交歓大会が開催されることになったのです。

しかし、選手達は、その悔しさ、辛い気持ちを乗り越え、本日の激励会では全てのチームにおいて力強い決意表明を行ってくれました。仲間の言葉に、「チーム大中」として交歓大会に臨む気持ちを強く鼓舞されたことと思います。そして、選手一人一人の姿に、逆境に負けない強さとたくましさを感じたところでした。そんな選手達に次のコーナーで紹介している為末大(ためすえだい)さんの言葉で、激励の挨拶を締めくくらせていただきました。以下に選手達の「選手宣誓」の言葉と「激励の言葉」を掲載しています。ご一読下さい。



激励の言葉
3年 増田さん

宣誓、僕たち、私達選手一同は、中総体に、これまで全てをかけ、本気で練習を重ねてきました。しかし、これまで当たり前にしてきたことが、突然出来なくなり、何で自分たちの代で、こんな状況になってしまったのか、今までの頑張りが無駄だったのではないかと思ひ苦しんだ時もありました。

そんな中、学校、部活が再開し、これまでの日々を共に過ごしてきた仲間と、ボールを追いかけると、今の状況を受け止め、前へ進もうとする決意することができました。僕たちに今できることは、これまで大好きな競技に本気で取り組んできた自分を信じる。苦しいときや辛いときも、共に支え合った仲間を信じる。

そして、どんな時も、どんな場面でもいつも見守り、支えてくれた指導者の先生や保護者の方々、日頃の感謝の気持ちを込めて、自分にできる精一杯の力を出し切る事です。大村中学校としての誇りを胸に、大中だましを全力で発揮することをここに誓います。

男子バレーボール主将 下村昇栄 女子バレーボール主将 鹿山瑠唯

毎年この時期にある中総体に向けて各部活動が日々切磋琢磨して精進している頃だと思ひます。しかし、今年はコロナというこれまでになかったもの影響で、三月、四月後半と休校になり自粛生活の中で思い切り体を動かすことはあまりできませんでした。自分もクラブチームに所属していますが、クラブ活動が中止になりました。家の中で、できることを見つけては体を動かしたり、外に走りに行ける時は走りに行ったりしました。そういう状況だったからこそ、学校が再開して部活動が始まるとスポーツや勉強をみんなでするこのありがたさを改めて強く感じました。そして、今まで当たり前と思っていたことが当たり前じゃなくなった時だからこそ、今できているものもしっかり感謝しなければならぬと思ひます。中総体から交歓大会に代わり、県大会以上がなくなったりととても残念なことになってしまいましたが、三年生にとっては最後の大会です。今までやってきたこと、自分や仲間を信じて勝利を目指して頑張ってください。 生徒代表 3年 増田開登



選手宣誓 3年
下村さん・鹿山さん

力強い行進
女子バドミントン部



熱い思いを込めた決意表明
男子バスケットボール部

「自分を諦めろ！だから、挑んで、負けて、また立ち上がる。 「あとき、自分お逃げなかつた。」ということがこれからの自分をもっと強くしてくれるから…。 400mハードル日本記録保持者 為末大 【特別の教科 2年生道徳より】

2年生のある学級通信に目とまりました。それは、学級通信の中に掲載されていた生徒一人一人の「道徳」の授業後の感想が、短い言葉でしたが、どれも素敵だと感じたからです。

そして、どんな授業を受けて生徒達はこんな感想を抱いたのか知りたくなり、学年の先生から教科書の資料をいただき、読んでみました。

すると、そこには、ハードル選手であった為末大(ためすえだい)さんが、「自分で自分を諦めず、何度も挑戦すれば、失敗の意味は変わってくるんだよ。」と温かく語りかけてくる素敵な体験談が書いてありました。生徒達の感想と併せて、為末大さんの体験談を抜粋して紹介させていただきます。ご一読ください。



為末大(ためすえだい、1978.5.3生)は、2000年シドニーオリンピックに出場しますが、予選レースで転倒し、敗退という結果に終わります。このオリンピックでの悔しさをばねに、単身で海外でのレースに出場し経験を積み、翌年の世界陸上エドモントン大会でついにメダルを手に入れました。400mハードル日本記録保持者。世界陸上2大会において男子400mハードルで銅メダルを獲得。オリンピックは3大会連続出場。

〇振り返ってみると、意外にも、勝利そのものは自信にならない。むしろ勝負どころで頼れるのは、あとき転んだけどまた立ち上がったじゃないかという気持ち。「あとき俺は勝つたじゃないか。」というよりも、「あとき自分は逃げなかつたじゃないか。」というほうが、明らかに自信につながる。自分の「立ち上がりぎわ」が自信になる。

〇目指す目標が高い人ほど、ほとんどの努力は無に帰する。だからこそ、負けてもう一回やればいいんだ、できなければ別の世界に行ってもいいんだと思えることが大事で、こういう感覚を学ぶには、やっぱり負けてみるしかない。挑んで、負けて、また立ち上がる。立ち上がった瞬間、自己肯定感が磨かれる。

400mハードル日本記録保持者 為末大

生徒たちの感想から

- ★今まで勝つことがいいこと、負けることはダメなんだと思っていたけど、負けても次頑張ればいいんだと思った。
- ★やっぱり失敗したりはするけど、そこから立ち上がれるようになりたいなと思った。
- ★為末さんは、何度もくじけそうになってもまた立ち上がって、何度も挑戦していてすごいなと思いました。自分も小さなことから積み重ねていて一生懸命に取り組んでいきたいです。
- ★何でも自分には向いていないとかマイナスに考えず、挑戦をし続けることが大切だということに改めて気付くことができた。
- ★すごくかっこよかったです。為末さんの考え方などに感動しました。そして、簡単に諦めていては自信が持てないなと思いました。自分自身を好きになれたら今以上に幸せになれると思いました。